



2015年4月

CeBIT 2015 結果報告 2

ドイツ・ハノーバー国際見本市会場で2015年3月16日（月）～20日（金）まで開催された国際情報通信技術見本市CeBIT（セビット）2015は、あらゆる経済分野の意思決定権を持つ人々を対象とした世界屈指のITイベントとして、そのビジネス志向をさらに強化した。基本テーマとして扱われたのは、「Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）」、「Internet of Things（モノのインターネット）」、「IT Security（ITセキュリティ）」、「Unified Communications（ユニファイド・コミュニケーション）」である。

経済のデジタル化は急速に進んでいる。CeBIT 2015では「d!conomy（ディコノミー）」がもたらした無数の商談機会だけでなく、デジタル化に必要な、大規模な取り組みにも焦点をあてた。つまり、この基本テーマはまさに的確であったと言える。会場全体を見渡せば、本イベントがデジタル化に関わる分野すべてを独特な方法で網羅していること、さらに、そのどれもがビジネス用途に対応したITイノベーションに重点を置いていることがわかる。出展企業は世界70カ国約3,300社となった。こうした企業には、2015年のパートナーカントリーである中国から、Huawei（ファーウェイ）、ZTE（ゼットティーイー）、Xiaomi（シャオミ）などの世界的に活躍する企業や、Deutsche Telekom（ドイツテレコム）、IBM、Microsoft、Hewlett Packard、Intel、Samsung、Vodafoneといった大企業などが挙げられる。さらにAlcatel Lucent Enterprise Deutschland（アルカテル・ルーセント）、コニカミノルタ、Rittal（リタル）、Schneider Electronic（シュナイダーエレクトリック）など複数の有名企業が毎年その名を連ねている。Amazon Webservices、Dropbox、Tesla Motors（テスラモーターズ）など、新たに参加した有名企業もある。なお、テスラは、自動走行可能でフル装備の電気スポーツカーを展示した。

BITKOM（ドイツ情報技術・通信・ニューメディア産業連合会）の調査によれば、デジタル化でドイツ経済が急激に変容しているという。この調査は、CeBITがまだ開催されている間に発表された。調査対象企業の70%はデジタル・トランスフォーメーションを大きな試練と見ており、55%は技術革新の必要性からくる重圧に対抗するべく、自社のビジネスモデルを調整しているという。また今年のCeBITでは、デジタル化の可能性を成功に導くには、立ち



上げ・成長段階にあるスタートアップのための理想的な条件を作り出せるよう、政治がしっかりと焦点を絞る必要があることが示された。中国で今起きている状況を一見すれば、貴重な見解が得られるかもしれない。なぜなら中国は、成長の可能性が最も高いインターネット市場とみなされているからである。この根拠は、CeBITのオープンセレモニーで印象的な基調講演を行った元英語教師Jack Ma（ジャック・マー）氏によって体现されている。インターネット・プラットフォームである彼の会社AlibabaはAmazonやeBayの売り上げを超えている。

IoTとIndustry 4.0

センサーやワイヤレスチップがさらに多くの機械や製品、日用品に搭載されるようになり、それらが互いに通信できるようになってきている。しかし、IoT（モノのインターネット）の実現は、統一されたネットワーク基準を持てるかどうかにかかっている。今年のCeBITでEuropean Telecommunications Standards Institute（ETSI／欧州電気通信標準化機構）は、欧州のスマートグリッドや、自動運転可能な車と工場の統合化に使用されるデータプロトコルを紹介した。しかしこれらはすべて高速データ通信が必要とされる。これに関連してVodafoneは、毎秒10ギガビット超の速度に達し、リアルタイムレスポンスを可能とする未来の5Gモバイル通信ネットワークを、CeBITの来場者が体感できるようにしていた。これは2020年に実用化される予定である。

CeBITの活気溢れる様々な展示により、IoTのメガトレンドが持つ多角的な性質が鮮明に描かれた。ThyssenKrupp（ティッセンクルップ）はマイクロソフトの協力の元、エレベーターシステムの統合監視システムを提供した。このシステムは、故障を最小限に抑えると同時に、装置の技術的なステータスのフィードバックを行う。IBMは、クルーズ船運航会社の事例として、スマートクラウドですべてのクルーと他の従業員を統合し、社全体の連携を最適化するデモを行った。一方、Deutsche Telekom（ドイツテレコム）は、「Economic Miracle 4.0（第4次産業革命に伴う経済成長）」に向けたB2Bソリューションを紹介した。その中には、インテリジェントセンサー技術や、消耗部品の交換時期を所有者に警告するだけでなく事故時には救急サービスにSOSの信号も送信するモバイル通信モジュールを備えたオートバイが含まれる。スタートアップのビジネスプランコンテスト「CODE_n」でも、この話題が取り上げられた。ここでは、Industry 4.0を具現化した技術として、発泡スチロ



ールのキューブをユニークなアートオブジェに次々と変えていく4台の産業ロボットが展示された。

Research & Innovation (研究・技術革新)

研究開発は CeBIT では常に重要分野の一つであり、画期的な設計概念をアピールした一流の研究機関が数多く紹介された。Hasso-Plattner Institute が立ち上げた研究コンソーシアムは、大量のデータを人工知能型分析にかけ、エボラ出血熱などの危険な伝染病の拡散チェックに役立つ IT システムを紹介した。その他の機関からは、あらゆるビジネス範囲や市場を統合する概念が発表された。例えば Saarland University (ザールラント大学) は、人の腕に (タトゥーに似た) センサー付きシリコンゴムのシールを貼ることで、スマートフォンの入力画面が大きくなるといった拡張型ユーザーインターフェースとして人体を活用する現在のトレンドを挙げている。

IT セキュリティ

データ量が膨らみ続け、デジタル・トランスフォーメーションに関するプロセスが現在進行中であることから、ITセキュリティは注目され続けている。そして多くの出展企業がこの分野の新しいソリューションを発表した。Fraunhofer Institute for Applied and Integrated Security (Fraunhofer AISEC: フラウンホーファー応用・統合セキュリティ研究所) は、未来の複合ネットワーク上にある構成機器の管理を一点集中させ、完全に保護するセキュリティ・ソリューションを開発した。セキュリティ関連の話題はCeBIT Global Conferenceなど、複数の優れた会議イベントのアジェンダに頻繁に登場している。ジャーナリストのGlenn Greenwald (グレン・グリーンウォルド) 氏の講演では、モスクワにいるEdward Snowden (エドワード・スノーデン) 氏とのライブ中継が行われた。スノーデン氏は、CeBIT来場者に、個人情報に注意することをアドバイスした。もう一つはプロ・ハッカーのKevin Mitnick (ケビン・ミトニック) 氏のライブ・デモである。かつて彼はFBIから最重要指名手配者リストにあげられていたが、現在は、世界各国の政府や企業のコンサルタントとして重宝されている。

ユニファイド・コミュニケーション

あらゆる種類のネットワーク (電話通信、テレビ会議、スマートフォン、スマートビルディ



ングなど)は、現在、複合的な通信・制御プロセスの基盤として、様々なデータ伝送に使用されている。しかしこれらのシステムもまた、ユーザーにとって使いやすいものでなくてはならない。ここに複数の通信チャンネルを一つのアプリケーションに統合する「ユニファイド・コミュニケーションとコラボレーション(UCC)」という概念が関わってくる。AuerswaldやdigitalSTROMなどの多くのCeBIT出展企業が、この分野の製品やサービスを発表した。digitalSTROMのブースでは、Microsoft Kinectを使って、制御プロセスがいかにより未来のスマートホームを巧みに操作するか、その事例が紹介された。例えば、台所の蛇口の下で鍋を持っているだけで、赤外線センサーとカメラが装備された流し台は何か料理を作ろうとしていると判断し、鍋に自動的に水が入るといった具合である。

モバイル機器

CeBITではデジタルに関するコンセプト、プロセス、アプリケーションに注目されると同時に、スマートフォンやタブレットの新製品が豊富に揃い、実際に体験もできるようになっていた。その中には、Samsungの新型モデルGalaxy S6やGalaxy S6 Edge、その他、BlackBerry、富士通、HTC、Pearlの製品などが含まれる。結局のところ、クラウドがもたらす最もインテリジェントなサービスでさえ、人間からのインプット—ここではタッチスクリーンやボイスコマンド—を必要とするのである。

リリース全文は[こちら](#)、その他プレスリリースや写真は[こちら](#)からダウンロードできます。

見本市に関する詳細は下記へお問い合わせ下さい。

Deutsche Messe AG

Messegelände, 30521 Hannover, Germany

Tel. +49 511 89-0 Fax +49 511 89-36694 info@messe.de www.messe.de